

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[0]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[0]年、階級[]、同様の活動[]、任務[]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動[]、任務[]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動[]、任務[]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	とび口を用いて壁部の破壊作業に従事	指揮者の注意が喚起される
経過2	A	壁部が自分の方へ崩落してきた	壁幅約5m 高さ2.5m
経過3	A	壁部の下敷きとなった	下半身は壁の下敷きに
経過4	他の隊員	8人かがりで壁を持ち上げAを救出	Aに怪我は無かった
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	
・活動に対する経験が不足していた。	

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	
・悩み事があった。	

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	
・必要とする装備・資機材がなかった。	

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	
・暑かった（寒かった）。	
・野次馬が多かった。	
・現場周辺の地理に不案内だった。	

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	
・足元の強度が不足していた。	

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	
・指示内容に誤り・偏りがあった。	
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	
・隊員が不足していた。	

○その他

l. その他の理由があった。

--

図-1

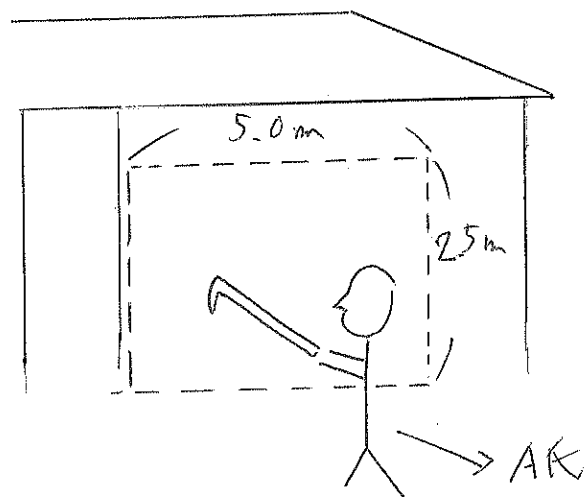


図-2

